

ワシントン大学看護学院(シアトル, 米国)の教員、大学院生の受入れを行いました (2019/7/22-29)

テーマ：国際交流, 2011年東北地方太平洋沖地震、カスケード超巨大地震
 場所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

7月22日から29日にかけて、ワシントン大学看護学科（シアトル、米国）より School of Public Health Faculty の Nicole Errett 講師、School of Nursing Faculty の Gail Johnson 上級講師、Mayumi Willgerodt 助教授兼教育副学長、そして大学院生の Rikki Peck さんと Haylea Hannah さんが、当研究所を訪れました。APRU-AEARU Multi-Hazards Summer School 2019に参加いただき、7月25日より当研究所 情報管理・社会連携部門 国際研究推進オフィスのマリ・エリザベス准教授、人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野のフルコ・フラビア助教、災害医学研究部門 災害精神医学分野の奥山純子助教とともに名取市閑上地区や七ヶ浜町などの東日本大震災の災害遺構を視察しました。また、宮城県立精神医療センターで DPAT についての講義をいただいたり、人間・社会対応研究部門 災害認知科学研究分野の杉浦元亮教授より「生きるカプロジェクト」の説明を受けたり、病院・肢体不自由リハビリテーション科の大学院生の研究について紹介をいただいたりしました。

7月26日から、東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科共同災害看護学専攻の大学院生・鐘ヶ江紗里さんにも加わっていただき、災害看護学や保健師制度などについて教えていただきました。最終日には今後の連携・協働体制について話し合いが行われ、さらなる連携体制の確立を目指すこととなりました。



防潮堤の役割を果たした仙台東部道路



閑上の津波避難タワーを見学



閑上の富主姫神社の被災の様子を伺う



宮城県立精神医療センターにて
 DMAT の講義を受ける